

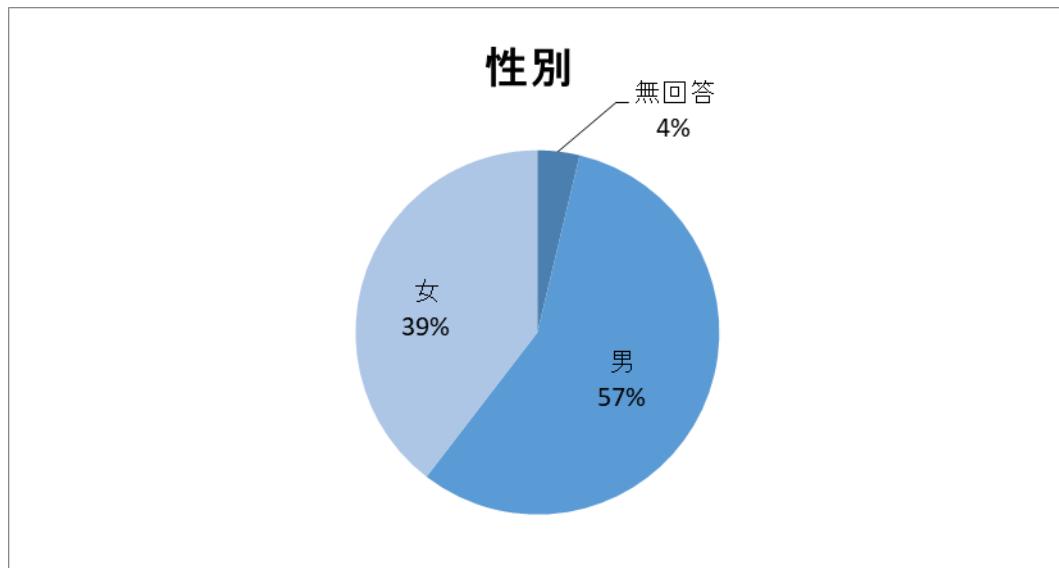
# 令和5年度空家所有者等アンケート調査

実施日：令和5年11月27日～令和5年12月14日

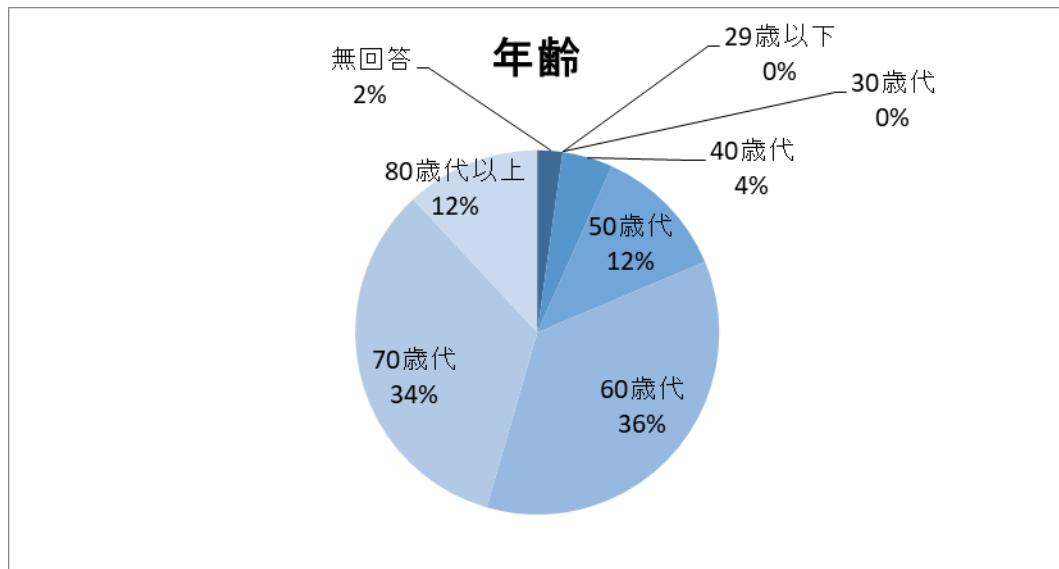
配布数：252部 回収数：134部（回収率：53%）

問1. あなた自身のことについておたずねします。

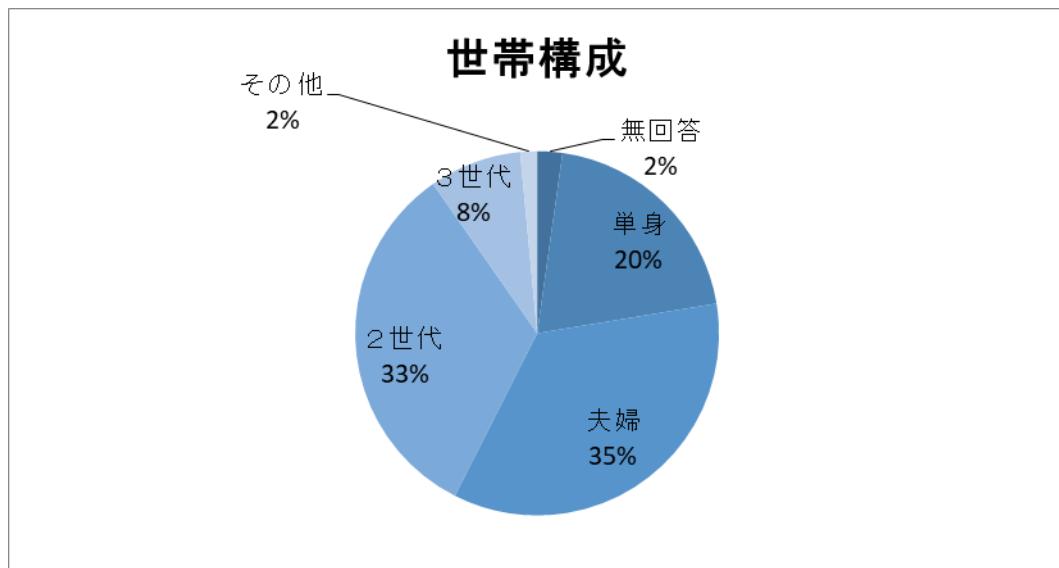
①性別：134名



②年齢：134名



### ③世帯構成：134名

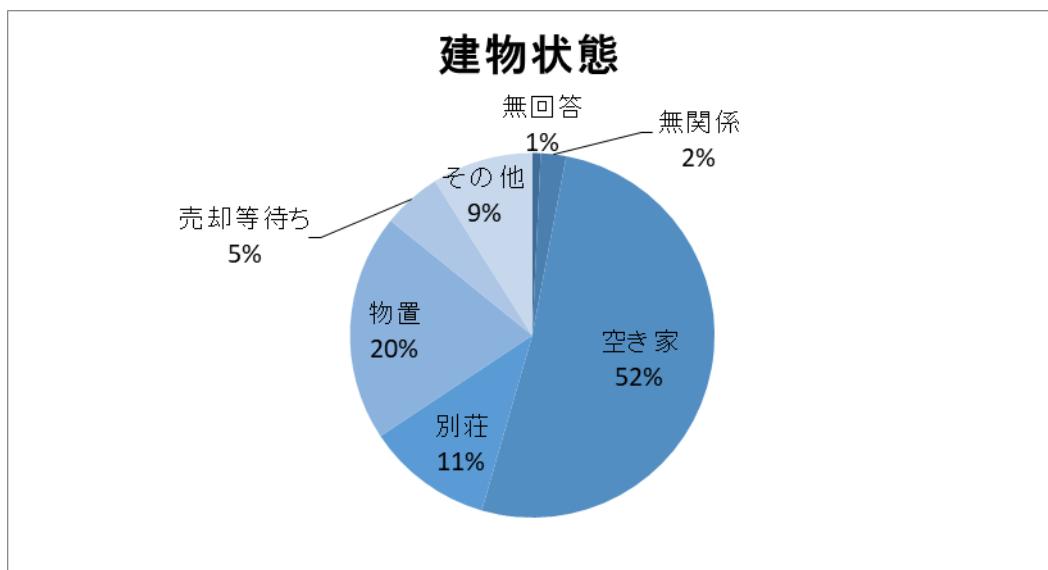


回答者の 82% が 60 歳以上で高齢者が非常に多いことがわかります。(H30 年調査比：1% 増)

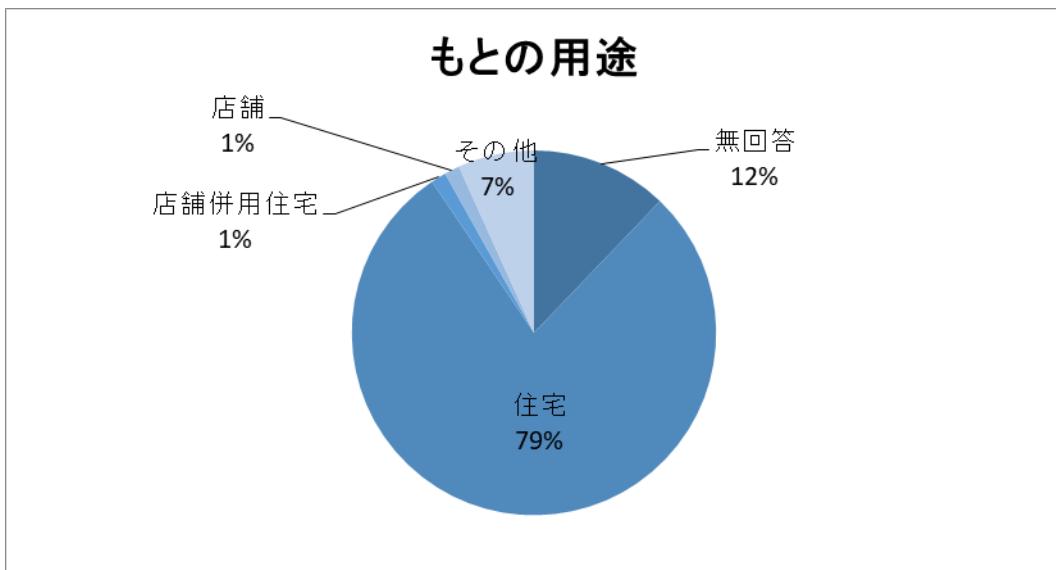
また、単身・夫婦世帯が 55% を占めており、世帯分離が進んでいることがうかがえます。(H30 年調査比：10% 増)

### 問 2. 令和 5 年度に村が行った現地調査の結果、空き家ではないかと思われる建物についておたずねします。

#### 1. 建物の状態：134 名



## 2. 空き家と回答した人に、もとの用途は？（複数回答あり）（69名）

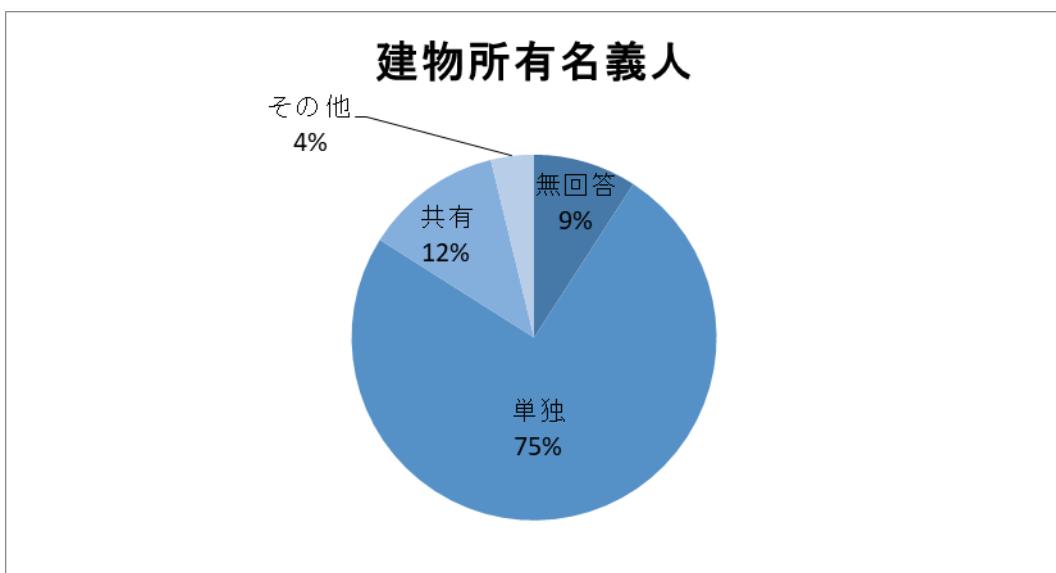


建物の状態については、52%が空家になっており、31%が物置・別荘として利用されています。「その他」の回答としては、「住居として利用している」との回答がありました。

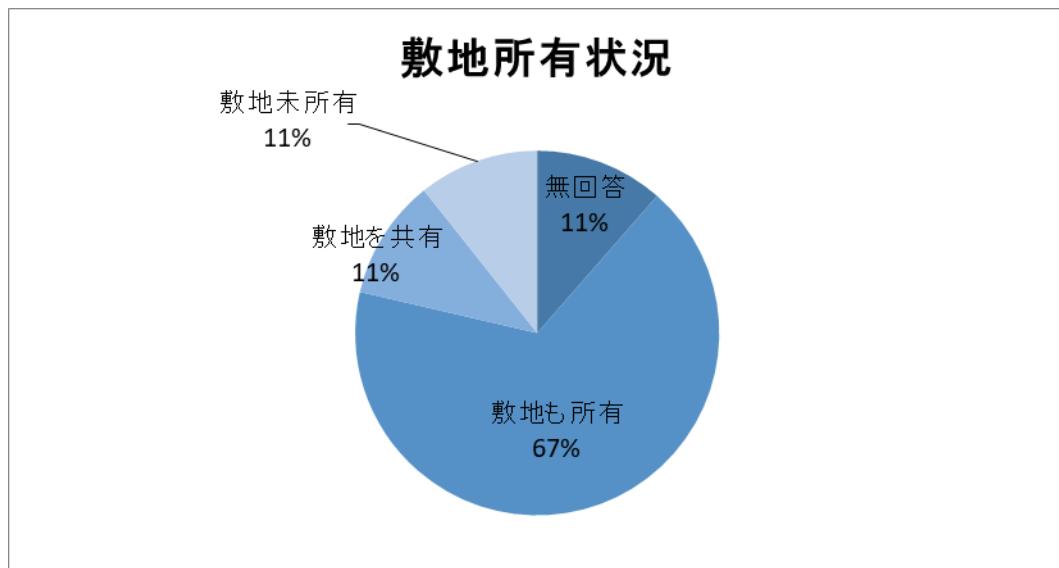
空家のもとの用途については、無回答を除いたほとんどが住宅となっています。「その他」の回答としては「物置」との回答がありました。

## 問3. 対象建物やその敷地についておたずねします。

### ①対象建物の所有者名義についてお答えください。（131名）



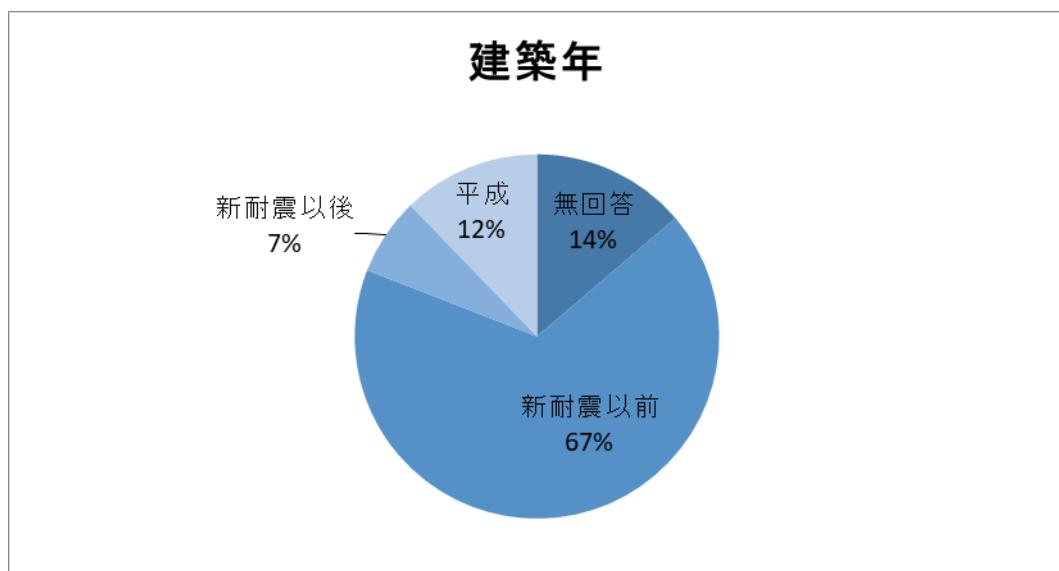
②敷地の所有状況についてお答えください。(131名)



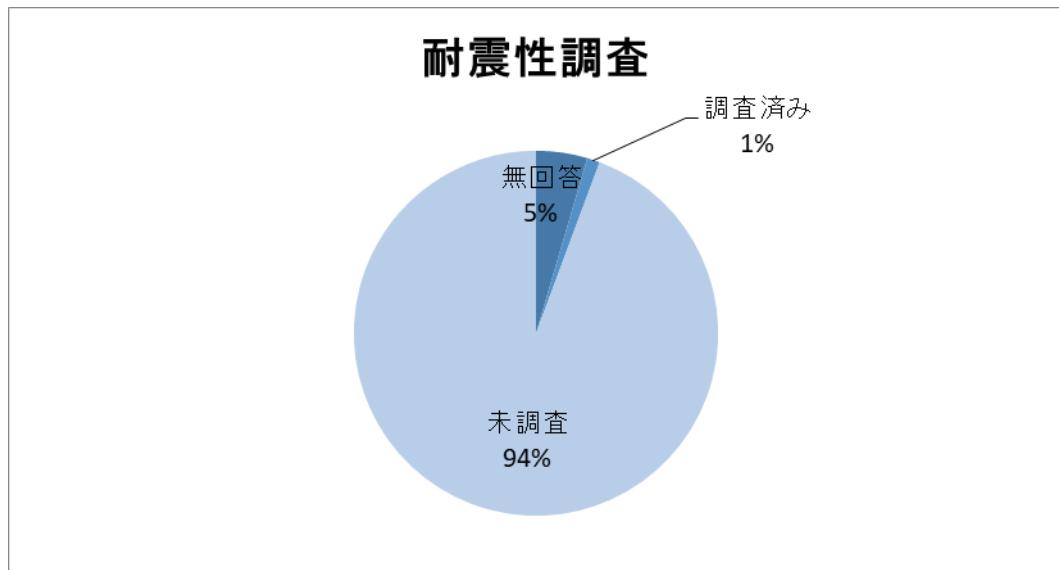
単独で建物所有名義人になっている人は 75%で、建物と併せて敷地も所有していると回答した人が 67%でした。このことから、半数以上の空家については、所有者が自由に処分を決められることがわかります。

問4. 対象建物は、およそ何年頃に建てられたものですか。

築年数 (131名)



1. 新耐震以前の場合、建物の耐震性調査は行っていますか。(88名)



2. その耐震性の調査結果はいかがでしたか。(1名)

耐震あり 0名

耐震なし 1名

3. 「耐震性なし」の場合、その後どのような対応をしましたか。(1名)

補強実施 0名

補強予定 0名

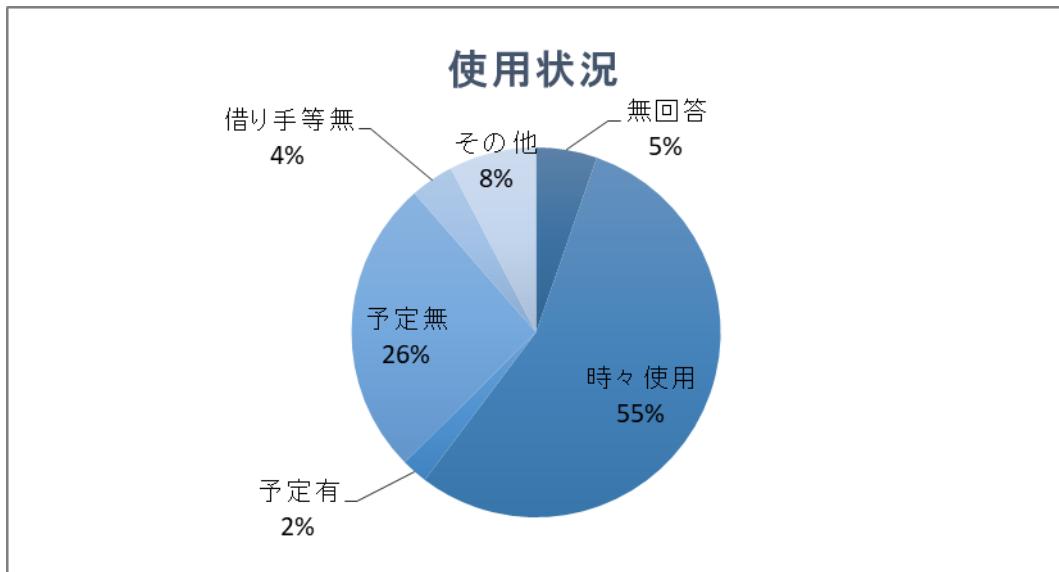
そのまま 1名

耐震基準は昭和 56 年 5 月 31 日に大幅に改正されましたが、それ以前に建設された建物が 67% と半数以上を占めています。さらに、そのうちの 94% が耐震性の調査を行っていないので、空家の耐震性は低いと思われます。

耐震調査済みの 1 件についても、調査結果は耐震性なしで、その後特に対応は施されず、そのままになっています。

問5. 対象建物の使用状況についてお答えください。

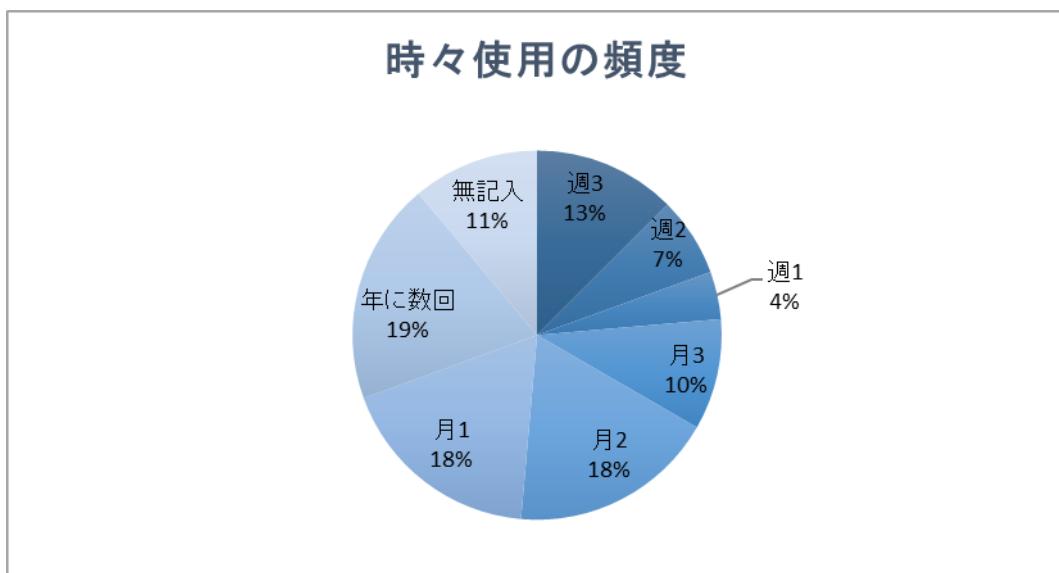
使用状況 (131名)



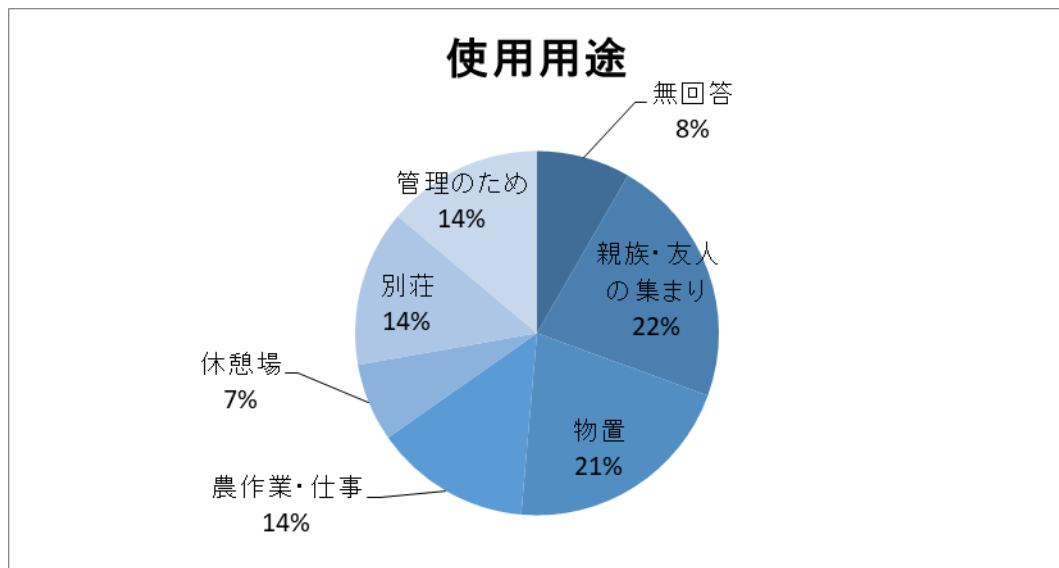
建物の使用状況は、「時々使用している」が55%でした。

問6. 問5で「1. 時々（居住以外の用途を含め）使用している」と答えた方におたずねします。

①使用頻度はどのくらいですか。(72名)



②どのような用途で使ってていますか。(72名)

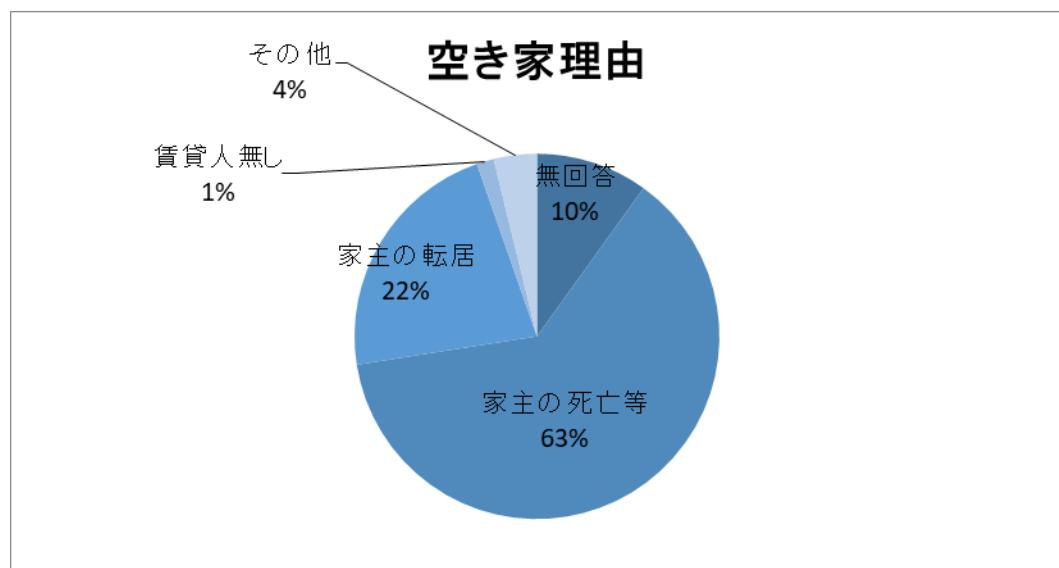


月に1回以上の頻度で使用している人は70%でした。

使用用途については、「親族・友人の集まり」「物置」としての使用がそれぞれ約20%と最も多く、「農作業・仕事」「別荘」「管理のため」がそれぞれ14%で続きます。

問7. この建物が空き家になった主な理由はなんですか。

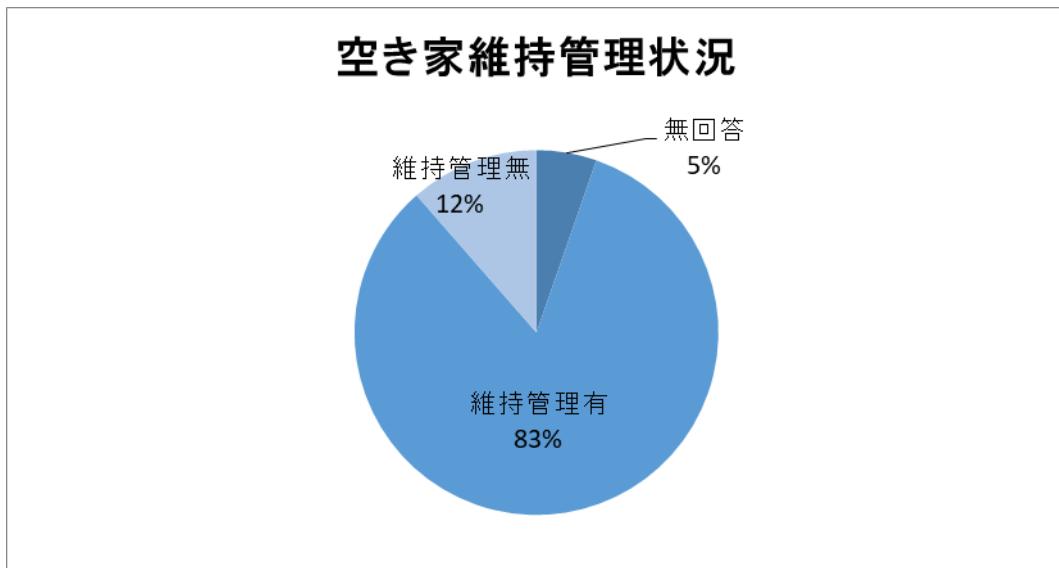
空き家になった理由 (131名)



家主の死亡等が63%を占めており、相続で空家を引き継いだものの、そのまま居住者不在となっているケースが多いようです。

問8. 現在、この建物の維持管理を行っていますか。

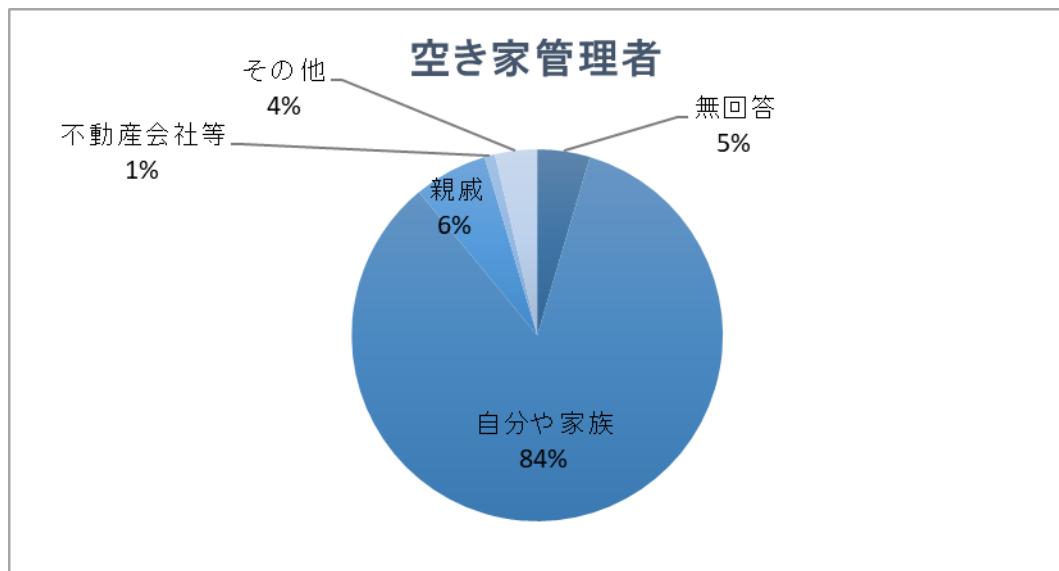
空き家の維持管理状況（131名）



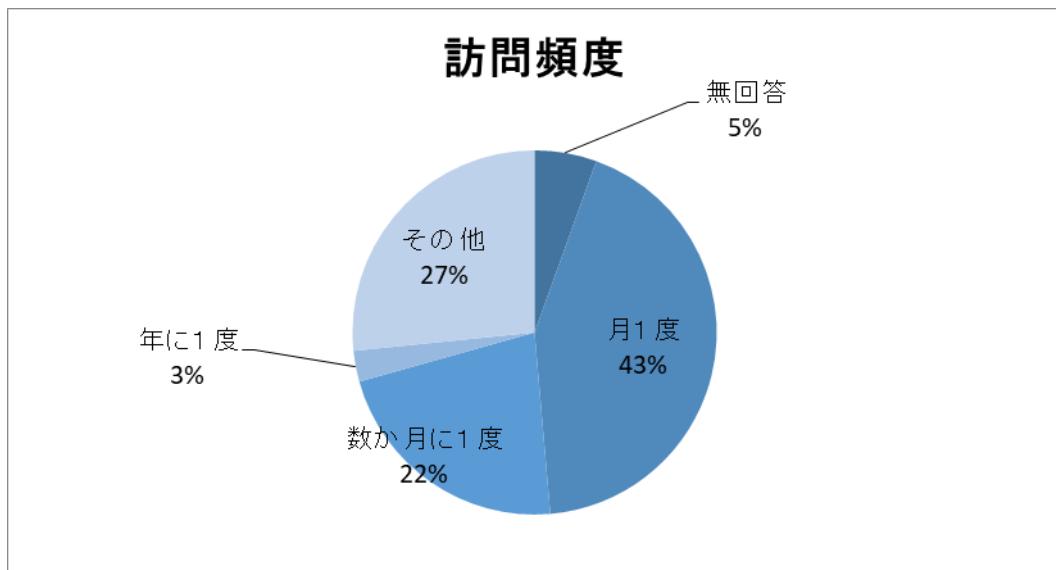
83%の空家について維持管理が行われており、所有者または管理者の意識が高いことがわかります。

問9. 問8で「1. 維持管理している」と答えた方におたずねします。

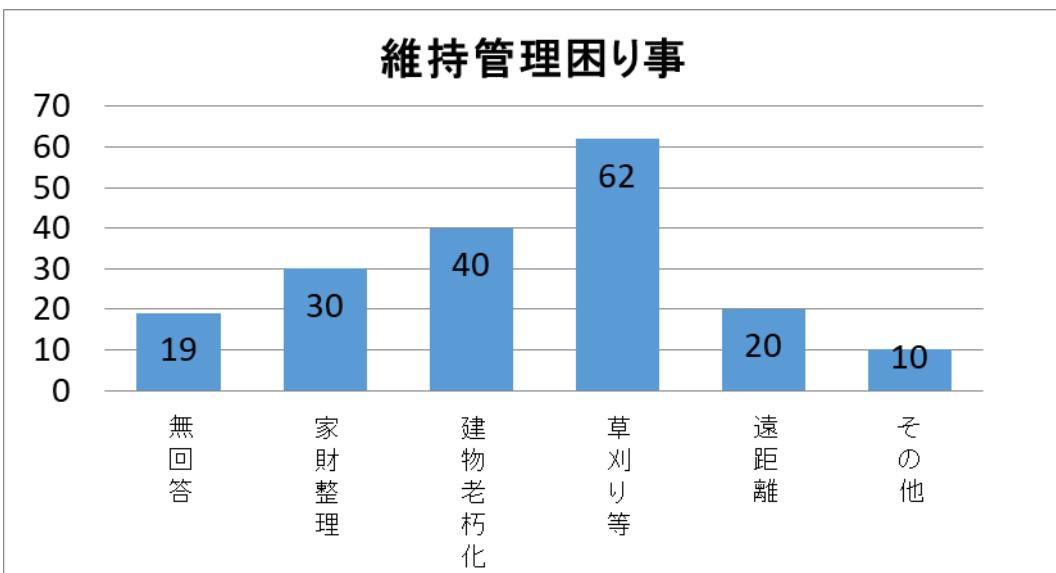
①対象建物を維持管理されているのは、主にどなたですか。（109名）



②①の人が、維持管理のために建物を訪れる頻度はどの程度ですか。(109名)



③この建物の維持管理でお困りの事がありますか。(複数回答可)

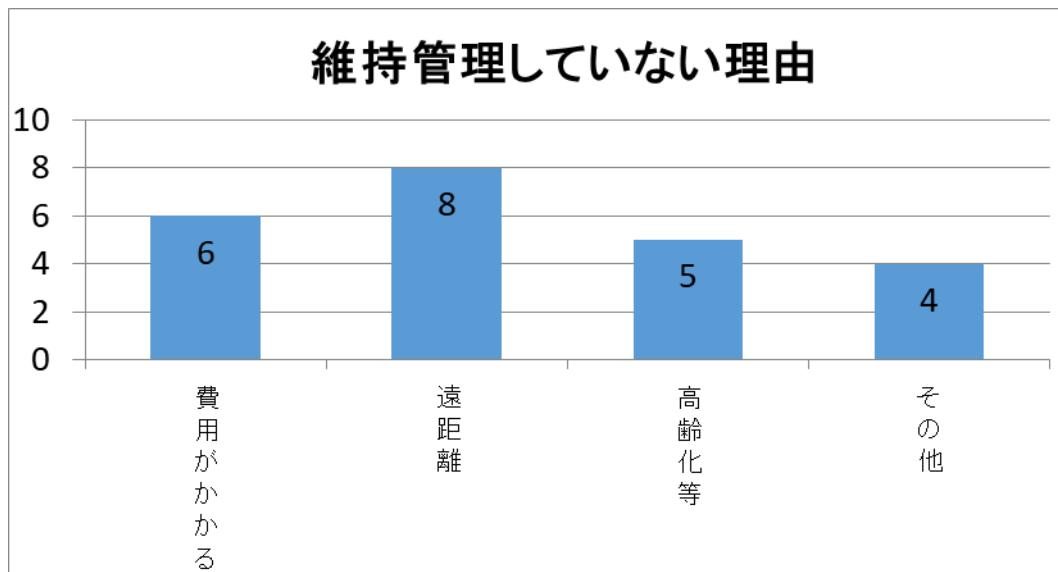


自分や家族で管理されている方が 84%で、管理に費用をかけずに行っているように見受けられます。

月に 1 度管理していると回答した方が、43%と最も多くなっています。

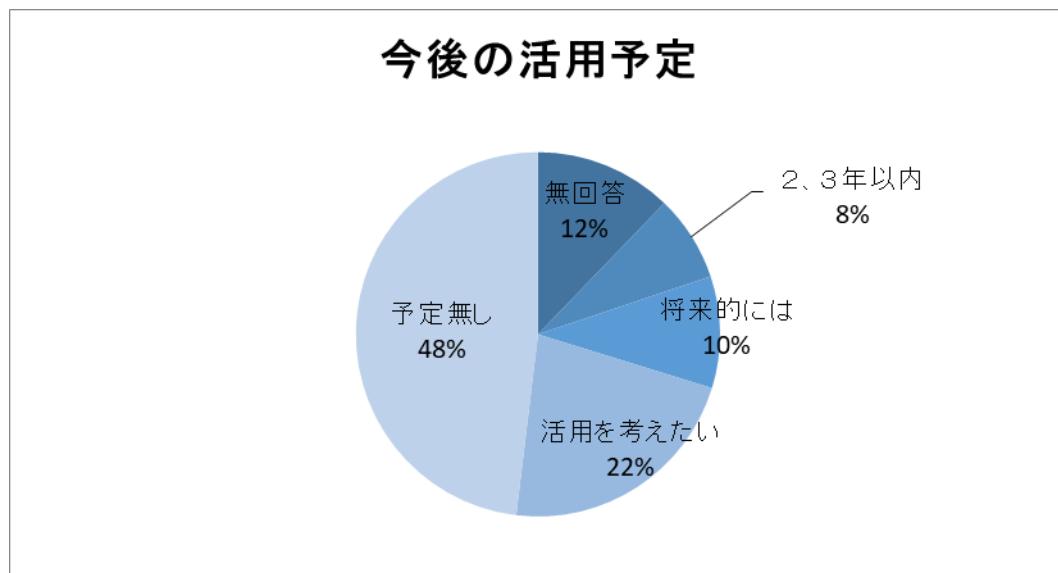
維持管理に当たっての困り事としては、「草刈り等」が 62 件で一番多く、続いて「建物老朽化」が 40 件、「家財整理」が 30 件となっています。

問10. 問8で「2. 誰も維持管理していない」と答えた方におたずねします。維持管理されていない理由は何ですか。(複数回答可) (15名)



「今の居住地が遠く、現地へ行くのが困難だから」が8件と最も多くなっています。

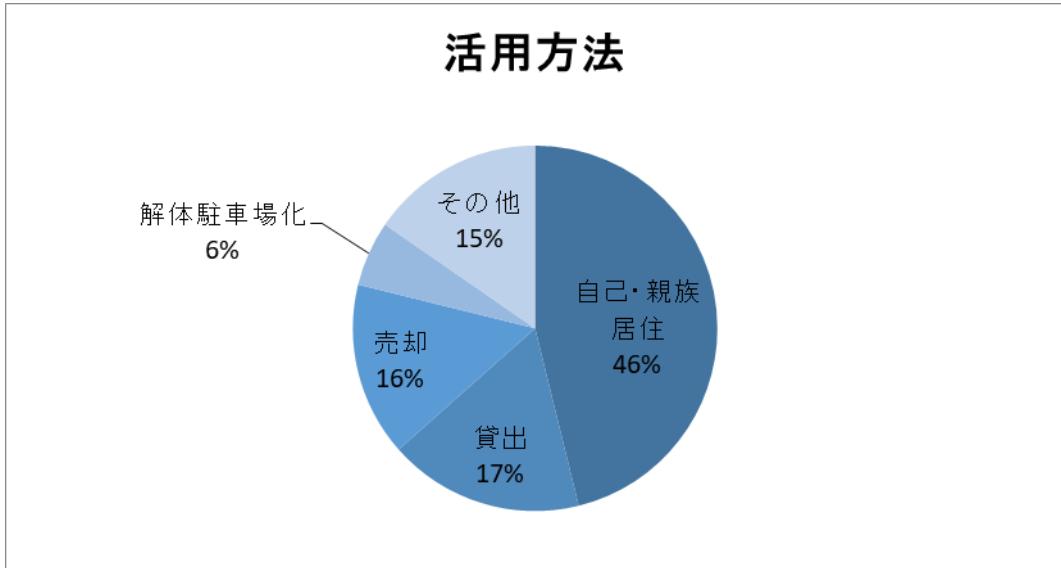
問11. あなたはこの建物について、今後活用したいとお考えですか。(131名)



「活用するつもりはない」が48%と約半数で、将来の展望がみえない状況があります。

問12. 問11で「活用する計画がある」、「活用を考えたい」と答えた方に伺います。  
どんな活用方法をお考えですか。

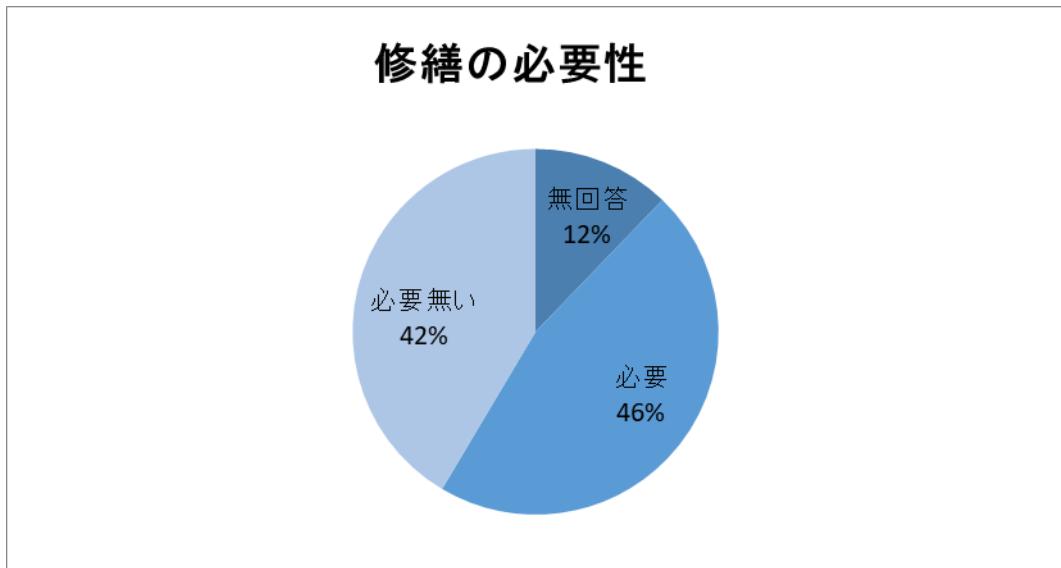
活用方法 (52名)



「自分または親族が居住・使用する」が46%と約半数を占めています。

問13. 問12で「1. 自分または親族が居住・使用する」、「2. 賃貸住宅などとして  
貸し出す」「3. 建物を売却する」と答えた方に伺います。そのためには、建物の  
修繕が必要ですか。

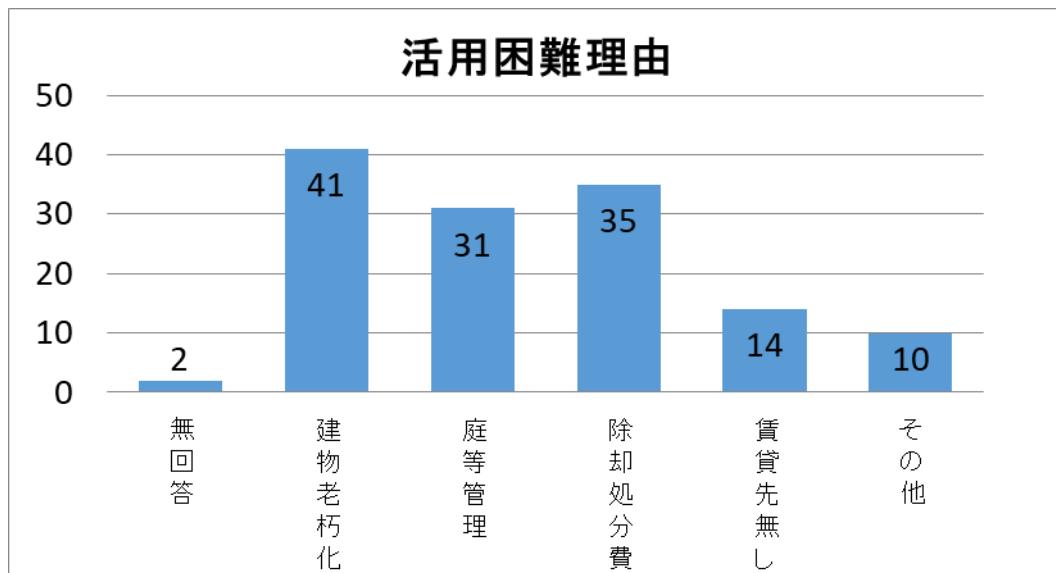
修繕の必要性 (41名)



「修繕が必要」と回答したのは46%、「修繕の必要はない」と回答したのは42%となりました。空家の活用を考えても、約半数はすぐに活用できないことがわかります。

問14. 問11で「4. 活用するつもりはない」と答えた方に伺います。対象建物の維持管理又は活用を考える上で、お困りになっていることや、心配事などがありますか。

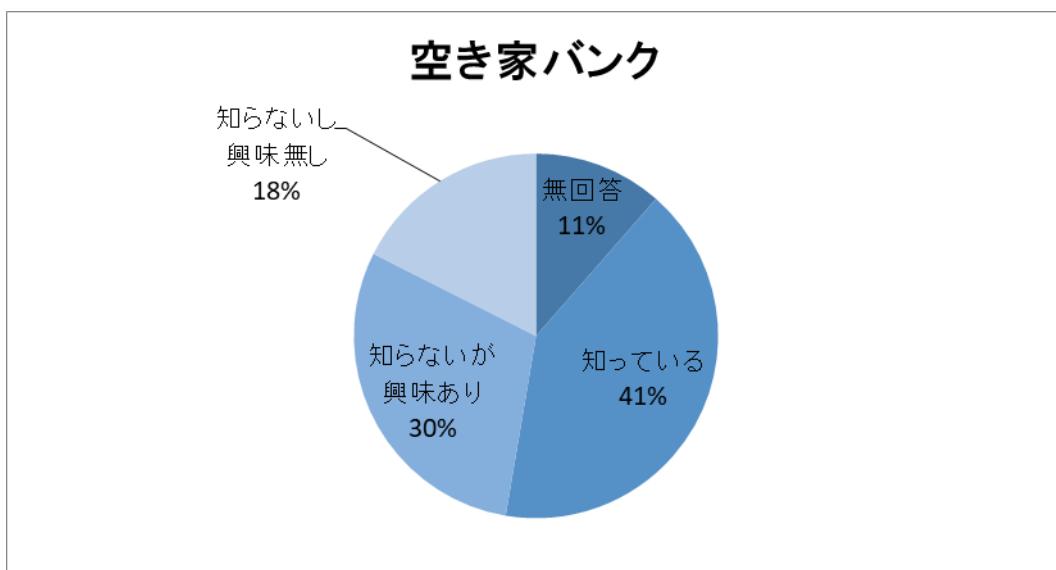
活用が困難な理由（複数回答可）（63名）



維持管理や活用に当たっての困り事としては、「建物の老朽化」が 41 件と最も多くなっています。次いで、「除却処分費」35 件、「庭等管理」が 31 件となっています。

問15. あなたは、村が「空き家バンク」を設置していることをご存知ですか。

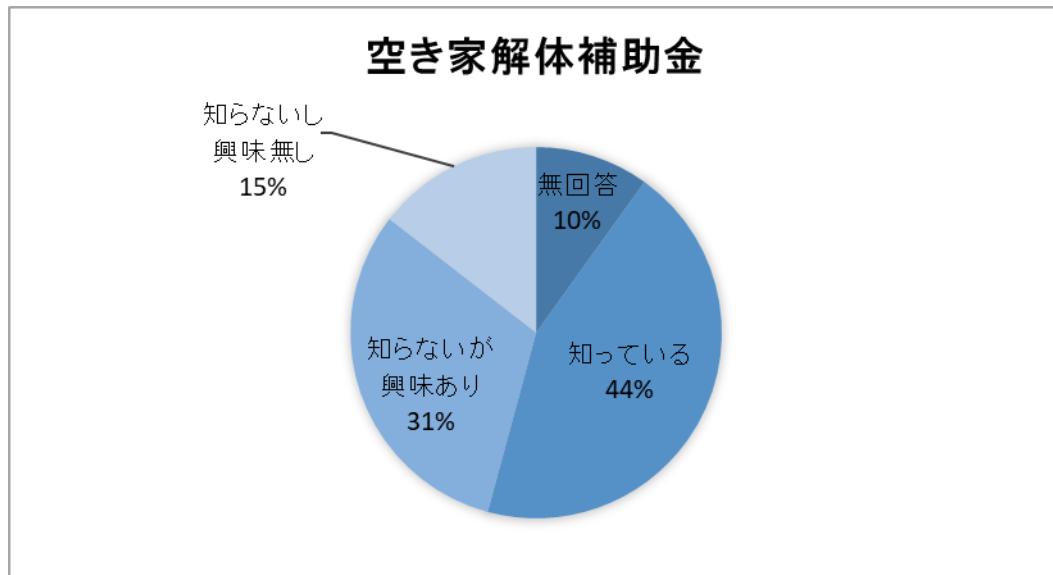
空き家バンク認知度（131名）



「知っている」が 41% となっており、一定の周知効果が出ていると思われます。（H30 年調査比：19% 増）また、「知らないが興味あり」が 30% となっており、約 3 割は需要が見込めるため周知啓発の継続が必要と考えられます。

問16. あなたは、村の「空き家解体補助金」をご存知ですか。

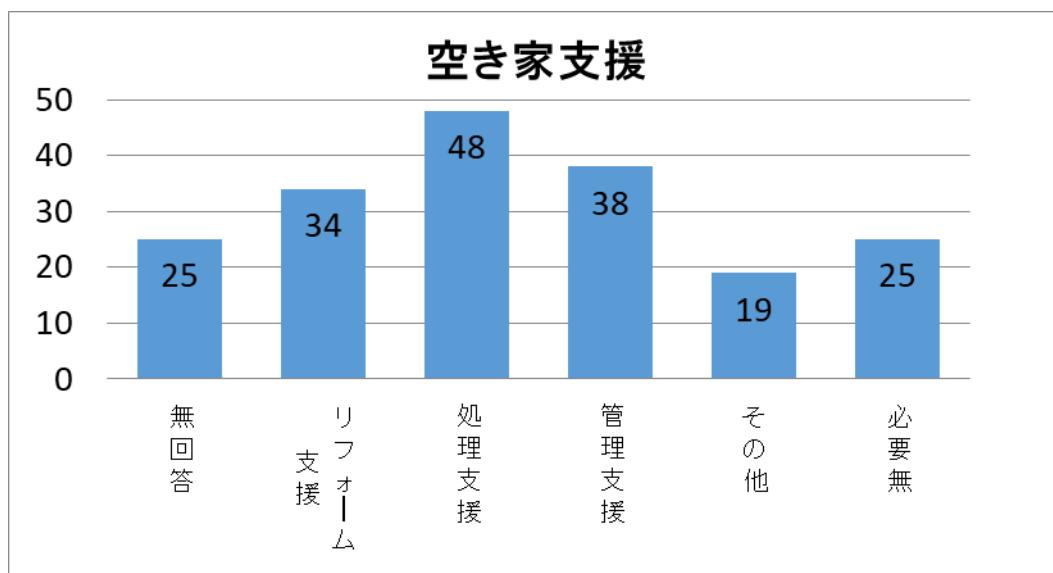
空き家解体補助金認知度（131名）



「知っている」が44%となっており、令和4年度に開始した制度周知の効果が出ていると思われます。

問17. 空き家の問題について、どのような支援があるといいなと思いますか。

空き家問題に必要な支援（複数回答可）



「家財処理支援」が48件と最も多くなっています。「空家管理の支援」が38件、「空家リフォーム支援」が34件と続きます。